

## 令和5年度地域教育行政懇談会の開催結果の概要について

### 1. 議題

- (1) 教育施策全般（県教育委員会の事務の管理・執行の状況の点検・評価）
- (2) 子どもの健やかな体づくりに向けた取組みについて

### 2. 日程・出席者等

(敬称略)

地域 日程	地域の教育関係者等	
	氏名	役職
高松・東讃・小豆 7月20日(木) 13:00～14:45	入谷 宣行	高松市PTA連絡協議会副会長
	松本 学武	高松市子ども会育成連絡協議会会長
	田村 みゆき	さぬき市PTA連絡協議会母親代表委員会副委員長
	寒川 千春	さぬき市PTA連絡協議会母親代表委員会副委員長
	橋本 知佳	東かがわ市PTA連絡協議会会長
	高橋 和稔	土庄町PTA連絡協議会会長（土庄小学校PTA会長）
	浜野 良一	土庄町スポーツ少年団育成連絡協議会会長（土庄町議会議長）
	山本 睦	小豆島中学校PTA副会長
	多田 亮介	三木町PTA連絡協議会会長
	白井 敏雄	三木町スポーツ協会会長
	谷岡 直樹	直島町立直島小学校長
田中 治子	直島町立直島小学校PTA副会長	
仲善・三観 7月26日(水) 13:00～14:30	紫和 恵理子	善通寺市立東中学校PTA会長
	石井 恭子	善通寺市いじめ防止等対策委員会委員
	高城 克如	観音寺市PTA連絡協議会副会長
	田井 秀典	三豊市教育委員会事務事業点検・評価員
	山根 和也	琴平町PTA連絡協議会役員
	片岡 孝暢	まんのう町少年育成センター所長
	齋部 陽子	満濃南小学校PTA
丸亀・坂綾 7月27日(木) 13:00～14:30	金澤 泰宏	丸亀市PTA連絡協議会会長
	十河 靖典	丸亀市PTA連絡協議会前会長・現顧問
	尾崎 祐介	宇多津町PTA連絡協議会会長
	田村 充	宇多津小学校PTA会長
	藤川 健二	綾川町PTA連絡協議会会長（綾川町立綾川中学校PTA会長）

### 3. 意見の概要

#### 教育施策全般（教育委員会の事務の管理・執行の状況の点検・評価）

- 学力の育成について、大学生が子ども達に宿題を教える宿題教室を開催したという新聞記事があったが、校種間の交流という面で、年上の子が年下の子に教えるという機会を増やしてほしい。また、読書力をどう身につけさせるかも重要な課題であると思う。
- ICT活用に関する取組みについて、環境の整備等が一定程度進んできているとのことであるが、時代の流れが速い中で、示されている5年間の計画で対応できるのかなという思いがある。
- 今後メタバースやICTの活用によって疑似体験が増えていき、理科の実験等の実際の体験が少なくなっていくのではないかと心配している。
- 一人一台端末の導入によって、授業参観等でその様子を見てみると、タブレットを見る姿勢が悪くなっていることが気になる。
- 不登校への対応として、一人の先生が複数教科をマスターすることは難しく、どのように子ども達に教科の補充を行うのかということが心配である。
- ICTの積極的な活用とあわせて、子ども達の情報モラルの育成についても重点的に取り組んでいく必要があると考える。
- 報告書の中身を全部は読めていないが、ネットやゲームの利用に関するトラブルについて、さぬきっ子安全安心ネット指導員などを活用して、知識をいろいろな人に伝えていくことで未然防止を図ってもらいたい。
- 子ども達の体力づくりについて、競技で順位ばかりを追い求めていくのではなく、楽しく取り組めるものがあればいい。また、点検・評価報告書の数値目標についても、先生達のプレッシャーにならないようにしてほしい。
- 部活動の地域移行について、学校以外で指導ができる人材が不足しているということが現実であり、どのように移行していくのかということを考える必要がある。
- 部活動の地域移行について、平日は学校の先生が指導を行い、土日は学校以外の方が指導するという状況も考えられ、先生、外部の指導者、子ども達、保護者等の間でしっかりとコミュニケーションを取ることが大切だと考える。
- ふるさと百人一首について、各学校に配布した後それを活用できているのか、ただ配るだけで終わっていないか。
- 郷土愛の育成について、地域の自然や文化に触れた際に疑問も持ち、それを突き詰め探求していくことが本来の勉強であると思っている。学校の先生も余裕がない中ではあるが、子ども達の郷土愛を育むため地域の教材をどう活かしていくかについて考えなくてはならないと思う。
- 学校の安全・安心の強化という点について、4月から自転車のヘルメット着用が努力義務化された中、PTAでもいろいろと対応を検討しているが着用率が低い状況にある。
- 一人一台端末を使った授業など教育面も大切であるが、不審者が学校に侵入することを防ぐなど、子どものセキュリティ面については惜しみなくお金をかけて守ってもらいたい。
- 教員の資質能力の向上について、先生自身が自分の能力を伸ばしたい、伸ばす喜びを感じる職場でなければならない。そのためには風通しの良い自由な職場で先生が主体的に子ども達と向き合えるよう、学校での働き方や研修の在り方などに工夫ができないだろうかと思う。

- 働き方改革について、文部科学省からいろいろな施策が出ているが、各学校、先生自身が一生懸命考えてやる気を持って働き方改革に邁進するような仕掛けが、県全体でできれば意味が出てくる。
- 全てがICTを活用することで解決するわけではないが、せつかく一人一台端末などICTの活用を進めているのであれば、さらにフレキシブルに活用していくことで教員の負担軽減等にも繋がるのではないかと。
- 最近の教育現場の変化は非常に大きいものがあり、特に先生と生徒、また保護者との関係がフラットになってきていると感じる。ティーチングではなくコーチングということで、自ら答えを導き出せるようにきめ細やかなサポートをするという形の教育の方向性は間違っていないと思うので、先生の時間を作るという観点からも働き方改革について対応をお願いしたい。
- 部活動の活動時間について、子ども達の体力向上やトップアスリートの育成等を評価項目として挙げているが、例えば野球部などの活動を見ていると活動時間に制約があり十分な練習ができていない状況が見られるのはどうなのか。
- 点検・評価報告書の内容等について、県のホームページなどには掲載すると思うが、一般の保護者の方はほとんど触れる機会がない。私たち保護者ももっと積極的に興味も持たなくてはならないが、県や国においてもこのような情報の発信に力を入れていただきたい。
- 評価の内容を見ているとD評価が多い印象を受ける。5年間の計画で取り組んでいる中でPDCAサイクルがしっかりと回っているのか、毎年分析をしたのみで終わりになっていないか。
- 分析結果を確認する中で、やはりコロナ禍の影響はものすごく大きいと感じている。
- 地域の特性はやはり伸ばすべきではないかなと思うし、その地域でしかできない教育というものもあると思っている。それが、地域を愛する心になるのではないかなと思う。

## 子どもの健やかな体づくりに向けた取組みについて

### (体力づくりの推進)

- 同じ小学校でも学校開放をしている所とそうでない所がある。また、体力づくりのために体を動かそうというが、近所には子どもたちが遊べるような広場がない。遊ぼうとすれば周りから叱られるのにどうやって外で体を動かせばいいのかと思う。
- 体がしっかりしていると心も豊かになり、学力の向上にも繋がると思うので、施策の中で「体の育成」の優先順位をつけてはどうかと思う。
- 体力が落ちてきた要因について詳しく調べるとともに、全体の底上げ的な事業も行っていただきたい。コミュニティスクールでは、今後も継続して学校の授業だけではできない体力づくりの活動を行っていきたい。
- コロナの関係だけでなく、最近は物価高で、例えばスポーツ教室に通うことが厳しいご家庭もあるのではないかと。物価の急変により、スポーツ運動にける機会が少なくなり、それが運動時間の減少に結びつくとしたら、経済的な問題もあるのではないかと。
- プールの中での熱中症のことを聞いたが、学校のプール開放について少し心配になった。
- 体力づくりを日課として取り組むことが難しいと感じている。そのような中、「Kagawa2022体力番付」のような目新しい取組みは魅力的であると思う。

- 学校に鉄棒はあるが、昔のような登り棒や雲梯がある施設が少なく、また使用禁止となっているところもあり、握力低下に繋がっていると感じる。
- 最近、小・中学生とも親の送迎が多く、学校までの距離を歩かない。荷物を持って歩かないことで握力に差が出るのかなと思う。
- 中学校の部活動の地域移行について、移行するクラブは都市部に多く、地方には少ないという印象で、指導する先生が専門の強い先生だと強いし、そうでないと弱いということがあると思う。地域によって偏りがあるのではないかと懸念される。
- 全国的にレベルが高いところは、企業も支援し、都道府県だけでなく市町での対抗駅伝の大会など、素材の発掘の場が非常に多いと思う。環境の変化もあるが、そういう素材を発掘する場である大会が復活し、機会が増えれば良い。

#### (健康教育・食育の推進)

- 集中力が持たずキレやすいなど、さまざまな問題の根底には朝食を食べていないことがあると思っている。ネットやスマホに関する教育も大切であるが、子どもの精神状態を健康に保つためにも食育は本当に大切なことである。
- 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果を見ると、小・中学校ともに「朝食を毎日食べる」グループが体力合計点は一番高いとか、「睡眠時間」が小学校では8時間以上、中学校では7時間以上のグループが体力合計点が高いという結果が出ている。運動も当然、体力には関係するが、朝ご飯を食べるといった生活習慣の改善も、体力に関連している。
- 暑いので家でゲームばかりして全然運動をしないなどが影響しているのではないかと思う。
- 運動をしている子としていない子では基礎体力が違っていると感じている。自分の家庭では、大人と一緒にバットを振るとか、縄跳びをすとかからでも始めると、小児生活習慣病検診の数値も少しだが改善してきている。そういう仕掛けがうまく回れば、運動習慣が付き、体力も上がっていくのではないかと思う。